

【るもい農業情報広場】

令和5年10月1日 R5-10月号

QRコードを読み取って
アクセス!!!

今月の技術対策 (水稻編)

留萌農業改良普及センター

TEL: 0164-62-1779 FAX: 0164-62-2474

E-mail: rumoi.nakanoukai1@pref.hokkaido.lg.jp



畑作・園芸編も
HPで公開中!

1 透水性改善と稲わら処理 ~早めにほ場の乾燥化をすすめましょう~

- 収穫作業は平年より早く終了しましたが、9月の降水量が平年の1.5倍程度となっており、乾燥が遅れてるほ場が散見されます。まずは水田の排水対策をすすめ、ほ場が十分に乾燥してから秋起こしや稲わら処理に進みましょう。

収穫後の稲わらは、搬出して堆肥化するのが理想ですが、やむをえずほ場にすき込む場合は分解を促進するため秋に行いましょう。春すき込みは、土壌還元を助長し初期生育を阻害するので、可能な限り避けましょう。

(1) 透排水性の改善

ア ほ場に滞水がある場合は、速やかに溝掘を行いましょう。掘った溝は排水口や明きよに確実に繋ぎ、田面の停滞水が排水されるようにして下さい。

イ 心土破碎は、ほ場が乾いている状況で実施しましょう。暗きよや疎水材の深さに留意して、ゆっくり施工するのがポイントです。

(2) 稲わら秋すき込み

ア ほ場が乾燥したら気温・地温が低下する前に、チゼルプラウやスタブルカルチ等で土壌表面に混和する。ロータリーの場合は浅く耕起して、分解を促進させましょう。

2 土壌診断を実施して、施肥設計しましょう!

- 稲作の生産コストが上昇しており、収益性の維持・向上のためには施肥の見直しが一つの対策になります。診断結果の各項目の肥沃度に応じて肥料銘柄を変更するなど、低コストとなる施肥を検討しましょう。

一方、ケイ酸は食味や耐病性の向上に有効な資材で、不足している水田が多いので分析結果に基づいた量を補給するようにしましょう。

土壌診断を実施する場合は、早めに採土して分析機関に依頼しましょう。なお、リン酸やカリは、前年の分析値を参考にすることも可能です。

3 次年度使用する除草剤の検討

- シズイやハイコヌカグサなどの難防除雑草が一部で問題になっています。被害低減のためには効果が高い薬剤で体系処理する必要があります。多発したほ場がある方は、普及センターや農薬販売者などと相談して薬剤選定を行って下さい。

~秋の日はつるべ落とし。作業機を含め、早めのライト点灯を!~